

群 教 セ	E03 - 03
	平17.228集

先人の働きや苦心を自分とのかかわりから 考える力を育てる指導の工夫

— 地域マップに様々な情報を重ね合わせる活動を通して —

特別研修員 平形 公宏 (太田市立宝泉東小学校)

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科における問題解決的な学習の過程に、地域マップに様々な情報を重ね合わせる活動を通して、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考える力を育てることを目指したものである。地域マップに過去や現在の追究して得られた多くの情報を重ね合わせ、その情報を比較・分析することで、過去と現在の関連性に気付き、先人の働きや苦心の上に自分たちの生活が成り立つことについて考える力を育てる活動を行った。

キーワード 【社会一小 地域学習 問題解決的な学習 地域マップ】

I 主題設定の理由

今日の学校教育に求められていることは「生きる力」を身に付けた児童の育成である。それは、自ら学び、自ら考える力を身に付けることにあると言える。社会科においては、地域の社会的事象を様々な角度から総合的に考察したり、地域の発展を願い苦心を重ねてきた先人の業績を理解したりすることで、地域社会や国土に対する理解と愛情を育くむことにあると考える。児童は、直接体験したり、問題を追究したりする活動を通して、主体的に学習に取り組み、社会的事象の特色を理解している。しかし、直接体験することが難しい過去の事象については理解が深まらず、過去と現在の事象は関連が薄いものにとらえがちであり、先人の働きや苦心についての考えが深まらない。そのため、過去と現在の事象や児童の生活との関連性に気付かせ、先人の働きの上に自分たちの生活が成り立つことを理解させることで、先人の働きや苦心についての考えが一層深まると考える。

本校の児童の実態を見ると、社会科への関心が高く、意欲的に調べる活動や見学、体験活動に取り組むことができる。しかし、児童は調べて分かった様々な事象について、事象相互や事象と自分たちの生活との結び付きについて理解することが不十分である。そのため、自分たちの生活は地域の人々の努力や願いの上に成り立つことについての考えが深まっていかない場面が多く見られる。その原因としては次のことが考えられる。①体験

や調べる活動に多くの時間を割いてしまい、まとめる時間がなくなってしまったこと、②社会的事象が自分たちの生活と関連していることについて考えさせる活動をあまり取り入れてこなかったこと、③地域発展に尽くした人々の願いや働き、苦心について考えさせる活動が少なかったこと、である。そのため、これらの児童に対して、事象の理解だけにとどまらず、地域の人々の様々な活動が自分たちの生活の向上に深くかかわることに気付かせ、先人の働きや苦心について考えさせる活動を取り入れることが大切であると考え。

そこで、本研究では、問題解決的な学習の過程で、地域マップに様々な情報を重ね合わせる活動を取り入れることにした。地域マップに児童が追究して得られた様々な情報を重ね合わせていき、それぞれの情報について比較・分析することで、児童は社会的事象相互の関連性に気付くことができる。また、地域マップには過去と現在の情報も重ね合わせられる。これらの情報を比較・分析していくことで、児童は過去と現在の事象の関連性に気付くことができる。このような活動を通して、児童は自分たちの生活は先人の働きや苦心の上に成り立っていることについて考えられるようになり、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考える力を育てることができる。と考える。

以上のことから、地域マップに様々な情報を重ね合わせることは、先人の働きや苦心について自分とのかかわりから考える力を育てる上で有効であると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

問題解決的な学習の過程において、地域マップに収集した情報を重ね合わせ、比較・分析する活動を取り入れたことが、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考える力を育てるために有効であることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 つかむ過程においては、地域マップに重ね合わせた情報から、開発に込めた先人の願いを予想する活動を行えば、自分が調べていこうとする課題を明らかにすることができるであろう。
- 2 追究する過程においては、小集団で話し合いながら追究して得た情報を地域マップに重ね合わせる活動を行えば、社会的事象相互の関係について考えを深めることができるであろう。
- 3 深める過程においては、地域マップに新たに追究して得た情報を重ね合わせ、過去の事象とのかかわりについて考える活動を行えば、開発に込められた先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考えることができるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考える力とは

地域の発展に力を尽くした人々は、地域を愛し、地域の人々の生活の安定と向上を願い、地域の開発や教育、文化、産業などの発展にかかわる活動を行ってきた。そして、現在の私たちの生活は、先人の苦心や努力の上に成り立っている。

先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考える力とは、過去と現在の事象は関係の薄いものにとらえがちな児童が、当時の開発の様子や苦労について調べ、現在の地域の様子や当時の技術、生活などを比較することで、過去と現在の事象は結び付いており、現在の私たちの生活に先人の働きが生かされていることを理解する。そして、過去と現在のかかわりやつながりに気付いたことから、先人がどのような社会の実現を目指して活動

し、努力してきたかを自分とのかかわりから考えていく力である。

児童は、過去の事象も現在の私たちの生活と結び付いていることを知り、自分とのかかわりから先人の働きや苦心を考えることで、先人の働きや苦心についての考えを一層深めることができると考える。

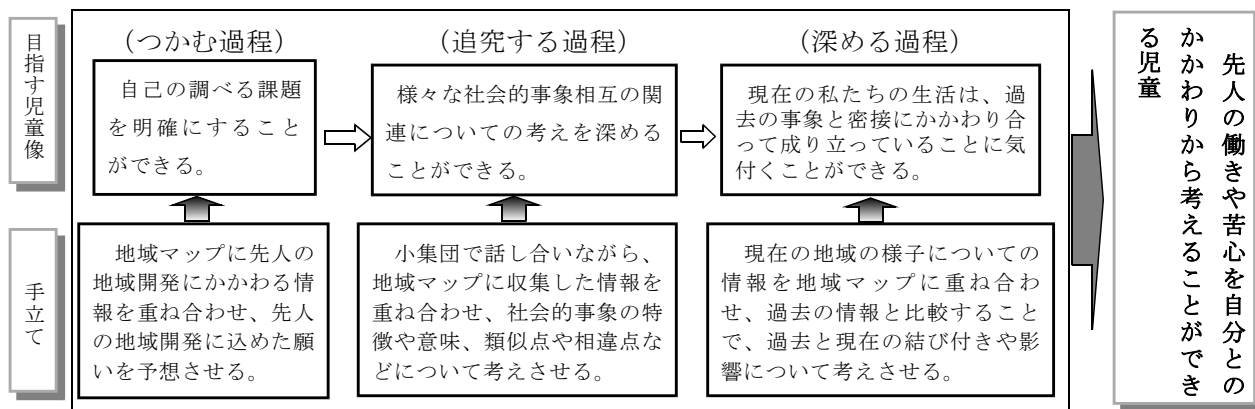
(2) 地域マップに様々な情報を重ね合わせる活動とは

地域マップに様々な情報を重ね合わせる活動とは、先人の働きに関連した過去と現在の事象など様々な情報を、児童の生活する地域から先人の働きにかかわる地域を範囲とした地図上に重ね合わせていくものである。

まず、この地図には、今後の活動の目安となるような交通路や河川、山などが記入されており、そこに先人の働きに関する幾つかの事象が配置される。それらの情報から児童は、調べていこうとする課題を明らかにすることができると思う。次に、同じ地図に児童が追究した先人の働きにかかわる過去の情報が重ねられる。ここで重ねられた情報を比較・分析することで、過去の社会的事象相互の関連性について考えを深めることができると考える。そして、最終的には、この地図には、先人の働きにかかわる現在の情報が重ねられる。この過去と現在の情報を比較・分析していくことで、過去と現在の結び付きや先人の働きの現在社会への影響などに気付き、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考えることができると考える。

このように、地域マップには現在と過去という時間的に異なる情報や様々な視点で収集された情報が重ね合わされている。地図上に重ね合わされた様々な情報は、内容が似ているものは、相互の距離が近く配置される。一方、内容が異なるものは、相互の距離が遠く配置される。児童は、小集団で話し合いながら、地図上に重なり合った様々な情報の距離や内容を比べることで、それぞれの情報の特色や意味、類似点や相違点など多くのことに気付くことができる。このような活動を通して、児童が過去と現在の社会的事象は、互に関連し合って成り立っていることに気付くことで、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考える力を育てることができると考える。

〈研究の構想図〉



2 研究の方法

(1) 授業実践計画と検証計画

対 象	太田市立宝泉東小学校 4年2組(31名)	単 元	郷土に伝わる願い 「水田に水を」
実施期間	平成17年10月17日～11月11日(全11時間)		
検証項目	検証の視点		検証の方法
見通し1	つかむ過程において、「岡上景能による岡登用水」の開発にかかわる情報を地域マップに重ね合わせ、岡上景能の用水路開発に込めた願いを予想する活動を取り入れたことは、追究しようとする課題を明らかにするために有効であったか。		・地域マップ ・学習プリント ・観察
見通し2	追究する過程において、岡上景能の用水路開発の働きや当時の道具や技術などについて調べた情報を、小集団で話し合いながら地域マップに重ね合わせ、情報相互の重なり方を比較する活動を取り入れたことは、それぞれの情報の特徴や意味、類似点や相違点など多くのことに気づき、社会的事象相互の関係についての考えを深めるために有効であったか。		・地域マップ ・話し合い ・観察 ・学習プリント
見通し3	深める過程において、現在の岡登用水や地域の様子について調べた情報を地域マップに重ね合わせ、地図上の過去の情報と比較する活動を取り入れたことは、現在の私たちの生活は過去の事象と密接にかかわり合っていることを理解し、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考えるために有効であったか。		・地域マップ ・話し合い ・学習プリント ・観察

(2) 抽出児童について

A男	調査活動が好きで、自分から進んで取り組める。しかし、調べて分かった事象相互や自分たちの生活とのかかわりについて考えを深めるまでには至っていない。地域マップ上の情報の位置関係を考えさせることで、それぞれの情報相互の関係について考えを深めさせたい。
B子	理解力があり、それぞれの事象の特徴は理解できる。しかし、社会的事象と自分とのかかわりを意識して考えることはできない。そのため、過去と現在の事象とのかかわりにまで考えが深まらない。地域マップ上の過去と現在の事象の重なり方を比べさせることで、過去と現在の関係について気付かせ、自分とのかかわりから先人の働きや苦心を考えさせたい。

V 研究の展開

1 単元の考察と目標

単元の考察	本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容(5)のウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を受けて設定したものである。岡上景能により開発された「岡登用水」について、地域の人から話を聞いたり、見学をしたり、当時や現在の生活の様子などについて調べたりすることで、自分たちが生活している地域の発展のために人々がどのような努力をしてきたかを自らの生活と結び付けて考えることができるようになる。このことから、本単元は地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えさせるために十分な価値をもったものである。	
目標	先人が地域の生活をよりよくしようとする願いを抱き、工夫や努力をしてきたことや先人の働きや苦心が現在の私たちの生活にも生かされていることを理解し、そうした歴史の上に成り立っている自分たちの地域社会に対する誇りと愛情をもつ。	
評価	十分満足できる	おおむね満足できる
	【社会的事象への関心・意欲・態度】	
	先人の働きや苦心に着目し、問題意識をもって、意欲的に発表や調査活動を行おうとしている。	先人の働きに関心をもち、見学や調査活動を通して意欲的に調べようとしている。
	【社会的な思考・判断】	
評価	過去の事象同士、現在の事象同士、過去と現在の事象相互の関連について考えを深め、先人の働きや苦心について自分とのかかわりから考えることができる。	過去と現在の事象相互の関連や結び付きについて考え、先人の働きや苦心について自分とのかかわりから考えることができる。
	【観察・資料活用の技能・表現】	
規	自らの課題解決に迫れる資料を選択し、調べた結果	調べる観点をはっきりさせて調べ、結果を整理し、

準	を整理し、他者に効果的に伝えられる方法を工夫して表現することができる。	分かりやすくまとめて表現することができる。
	【社会的事象についての知識・理解】 先人の働きによって、人々の生活が向上してきたことと、現在の私たちの生活にも先人の働きが密接に関係していることを理解する。 地域発展のために尽くした先人の働きによって、地域の人々の生活が向上してきたことを理解する。	

2 指導計画(全11時間)

過程	時間	主な学習活動・内容	指導上の支援及び留意点	形態	評価項目(評価方法)
つかむ	1	- 岡登用水・岡上景能にかかわる大まかな情報を知る。 - 地域マップに岡登用水と岡上景能にかかわる基礎となる情報を重ねる。	- 岡登用水や岡上景能にかかわる資料は、児童の興味を喚起しやすい写真やVTRなどを提示する。 - 地域マップは模造紙に岡登用水の取入口である大間々町から太田市までの範囲が記入されたもので、主要な交通路や河川、山など児童が目印としやすいものが記入されているものを小集団に1枚用意する。 - 今回の小集団は、各集団に話合いの進行やまとめができるような児童を意図的に配置した6人編成とする。 - 児童にとって今後の活動の目安となるような、岡登用水や岡上景能にかかわる史跡や遺跡の情報を提示する。 - 地域マップの使い方が分かるように掲示用マップを用意し、説明をする。	一斉 ↓ 小集団	理 資料を基に、岡登用水と岡上景能についての概要が分かる。 (発表・観察) 資 岡登用水や岡上景能にかかわる事象を地域マップに表すことができる。 (地域マップ)
	2 【見通し1】	- 地域マップを見ながら、学習プリントに岡上景能はどのような願いを込めて開発を行ったのか、予想して記入する。 - 地域マップと自らの予想を基に、自分の調べていきたい課題を決め、学習プリントに記入する。	- 岡上景能に対する当時の人々の思いや工事の困難さが読み取れる資料を提示し、それらを基に、開発に込めた景能の願いを考えさせる。 - 学習プリントは学習の過程や進め方が見通せ、活動への意欲が喚起できるものを用意する。 - 様々な情報を収集させたいので、同一集団内では、なるべく違う課題を選択させる。 - 考えを広げ、深められるように小集団で考えを伝え合う場を設ける。 - 学習課題が決まった児童は、どのような方法で調べていけば解決可能なのか考えさせる。	個別	思 岡上景能の用水開発に込めた願いについて、自分なりの考えを記入できる。 (学習プリント) 関 自分が追究していきたい課題を決めることができる。 (学習プリント、観察)
追究する	3・4	自分の学習課題に沿って、当時の生活の様子や道具、技術など、岡登用水の開発にかかわる事象について調べる。	- 調査活動で用いる資料については、教師側でも児童の課題に応じた資料を準備しておき、状況に応じて、取り掛かりのつかめない児童に与える。 - インターネットを活用する児童に対しては、事前に教師が検索しておいたサイトを中心に閲覧させる。 - 小集団内で調べる課題が異なるため、調べ活動は小集団を離れ、個別に行わせる。しかし、活動の活性化を図るため他集団で似たような課題を追究する児童と協力して活動するよう伝える。 - 授業の終わりには元の集団に戻し、その時間に分かったことの報告を行わせ、情報の共有化を図る。	個別 ↓ 小集団	関 自分の学習課題について進んで調べている。 (観察) 資 資料を効果的に活用して、調べることができる。 (観察、発表資料)
	5	調べた結果を付せんにまとめる。	- 調べた結果については重ね直しが容易にできるため、付せんにまとめさせる。まとめる際には見やすく、分かりやすくなるように、色を用いたり、図や表を取り入れたりするように伝える。 - 写真資料については、教師がスキャナーで取り込んで掲示資料に加工する。	個別	資 調べた結果を分かりやすくまとめることができる。 (発表資料)
	6 【見通し2】	岡登用水にかかわる事象について調べた情報を、小集団で話し合いながら、地域マップに重ね合わせる。	- 調べて分かったことを整理させるため、地域マップに調べた結果を小集団で話し合いながらつけさせる。 - 内容によっては、直接地図に書き込んでよいことを伝える。 - 地域マップに重ね合わせる際には、小集団で話し合いながら調べた情報の位置や内容を考えさせる。 - 今回地域マップに情報を重ね合わせる活動は初めてのため、見本を用意し、情報の重ね方を説明する。	小集団	資 調べた資料について、話し合いながら地域マップに重ね合わせることができる。 (地域マップ、話し合い)
	7 【見通し2】	- 地域マップに重ね合わせた情報を基に、それぞれの情報の類似点や相違点、特徴や意味などについて話し合う。 - 小集団ごとに話し合いの結果を発表する。	- 重ね合わされた情報の配置から、それぞれの情報の特色や意味について考えさせる。 - 重ね合わされた情報の位置関係から、それぞれの情報の類似点や相違点について考えさせる。 - 全体で発表する時間を設けることで、自らの考えを見直させるとともに、多様な考えに触れさせ児童の考えを広げさせる。 - 各集団の発表終了後に、自分たちの地域マップを見直す時間を設け、他集団の意見を積極的に取り入れ、社会的事象相互の関連性についての考えを深めさせる。	小集団 ↓ 一斉	思 それぞれの情報の類似点や相違点、特徴や意味などに気付く。 (発表、学習プリント) 理 岡上景能がよりよい生活を求め、努力をしたことが分かる。 (学習プリント)
		学習課題に沿って、岡登用水にかかわる	調査活動で用いる資料については、教師側でも児童の課題に応じた資料を用意しておき、状況に応じて、		関 自分の学習課題について進んで

深める	8	現在の様子や技術などについて調べる。	取り掛かりのつかめない児童に与える。 ○小集団内で調べる課題が異なるため、調べ活動は小集団を離れ、個別に行わせる。しかし、活動の活性化を図るため他集団で似たような課題を追究する児童と協力して活動するよう伝える。 ○授業の終わりに元の集団に戻し、その時間に分かったことの報告を行わせ、情報の共有化を図る。	個別 ↓ 小集団	調べようとしている。（観察） 【資】自分の学習課題について調べることができる。（観察、資料）
	9	○調べた結果を付せんにまとめる。	○調べた結果については重ね直しが容易にできるため、付せんにまとめさせる。今回は既に重ねてある過去の情報との違いが分かるように前回とは違う色の付せんを用意する。まとめる際には見やすく、分かりやすくなるように、色を用いたり、図や表を取り入れたりするように伝える。 ○写真資料については、教師がスキャナーで取り込んで掲示資料に加工する。	個別	【資】調べた結果を分かりやすくまとめることができる。（発表資料）
	10 【見通し3】	○小集団で話し合いながら地域マップに現在の地域の様子について調べたことを重ね合わせる。 ○現在と過去の情報を比較し、分かったことを記入する。	○小集団で話し合いながら、調べた情報を位置や内容を考えながら地図上に重ね合わせる。 ○既に地図上に重ねられている情報との関係についても考えさせながら、情報を重ね合わせる。 ○重ね合わされた情報の配置から、それぞれの情報の特色や意味、過去と現在の関係について考えさせる。 ○過去と現在の情報の関連性やつながりを中心に考えさせる。	小集団	【資】調べた資料について、地域マップに重ね合わせることができる。（地域マップ、話し合い） 【理】過去と現在のかかわりに気付く。（発表、学習プリント）
	11 【見通し3】	○岡上景能はどのような願いを込めて用水路開発を行ったのかを、自分とのかかわりに着目して、学習カードに記入し、発表する。	○岡上景能の開発に込めた願いを考えさせる際には、今までの学習の過程を振り返らせながら、現在の自分とのかかわりに着目させて考えさせる。 ○今までの学習の振り返りが容易となるよう、教室の壁面に各集団の作成した地域マップを掲示しておく。 ○ほかの児童の発表を聞き、参考にできるところは積極的に取り入れさせる。	一斉	【思】岡上景能の用水路開発に込めた願いを自分とのかかわりから考えることができる。（発表、学習プリント）

VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程において、「岡上景能による岡登用水」の開発にかかわる情報を地域マップに重ね合わせ、岡上景能の用水路開発に込めた願いを予想する活動を取り入れたことは、追究しようとする課題を明らかにするために有効であったか

岡登用水の現在の様子や岡上景能にかかわる史跡の存在について理解した後、それらの情報を地域マップに重ね、岡上景能が開発に込めた思いや願いを予想することで、追究する課題を明らかに

資料1 A男たちが見通し1で作成した地域マップ



していく活動を行った(資料1)。

A男は、最初この地域に水田が多く作られるよ

うになった理由として、川の水を利用していると考えた。しかし、昔は飲み水を得るにも深い井戸を掘っていたことを示す資料を提示したことで、「そういえば川の形が違うね。」と用水の存在に気付くことができた。その際A男は、「だれが用水を造ったのだろう。」とつぶやいていた。次に、岡登用水や岡上景能についての情報を地域マップ上に重ねながら、岡上景能が用水開発に込めた願いや思いを予想させたところ、A男は「水が不足して生活が困っているからだ。」と考えた。そして、地域マップ上に重ねられた、深い溪谷の岩を砕いて造られた取入口の情報と自分たちの生活する地域のなだらかな河原の様子を比べて、「どうして、岡上景能は用水の取入口をあの場所にしたのでろうか。」という疑問から、「地域の用水の取入口について調べる」という課題をもつことができた。

B子は、用水があるためにこの地域でも水田が多く作られるようになったことを知ったとき、「用水は、いろいろと役に立っているんだね。」という感想を発表していた。そして、地域マップに岡登用水や岡上景能についての情報を重ねた結果、「岡上景能は生活が苦しいみんなのために用水を造ろうとした。」と考えた。その後、地域マップに重ねられた用水の史跡の情報を見ながら、「用

されていたことを調べた。また、そこから発展させて、大原宿とあかがね街道についても調べ、追究を深めていった。

地域マップに重ね合わされた情報の位置や内容を比較する活動では、地域マップに重ねられた岡登用水の経路、あかがね街道の経路、大原宿の位置に近いことに気付き、そこから、岡登用水は、現在の生活用水と同じ意味の宿用水として使われていたことについて考えることができた。また、友達の調べた「のべ27000人の人々が、たがねなどの道具を用いて、3か月で工事を完成させた。」という情報から、多くの人々が田や畑を広げるために苦労して用水を完成させたことが理解できた。しかし、この小集団の情報は、地図上での位置や内容が離れていたため、なぜ苦労して農民たちが造った用水が、実際は農地のために使われなかったのかということについて疑問を残したまままとめを終えた。

その後、ほかの集団の発表を聞き、自分たちの地域マップを見直す活動の際、水利権の問題で冬場しか取水できなかったことについて発表した小集団の意見を取り入れ、自分たちの地域マップを再度見直すよう促すと、新たな情報を加えたことで、農業用水として使われなかった理由が分かり、それぞれの情報の関連性について考えを深めることができた(資料3)。

ほかの児童も各自が思い思いの視点で追究した

資料3 見通し2にかかわるB子の記述

岡登用水はわたらせ川から大原本町のまわりまで全長15kmもあります。つった方法はたがねであなもあけて旧約300人で3ヶ月で27000人の農民のんたちがつりました。岡登用水は冬のあいだしか使えなかったのて岡登用水は馬の飲み水などにつかわれてました。岡上さんはその宿場用水は人々をよこはせるためにつりました。

結果を地図上に重ねたことで、それぞれの情報の距離が一目で確認できるようになった。そして、それらの情報を比較することで、配置がまとまっている情報は内容も似ており、かかわりが深いことに気付くことができた。一方、配置が分散している情報は内容も異なり、かかわりが薄いことに気付くことができた。さらに、ほかの集団の考えを聞くことで、自分たちが追究しなかった新たな情報に触れ、その情報を基に地域マップを見直すことで、今までかかわりの薄いと考えていた情報も結び付けて考えられ、情報相互の関連性について

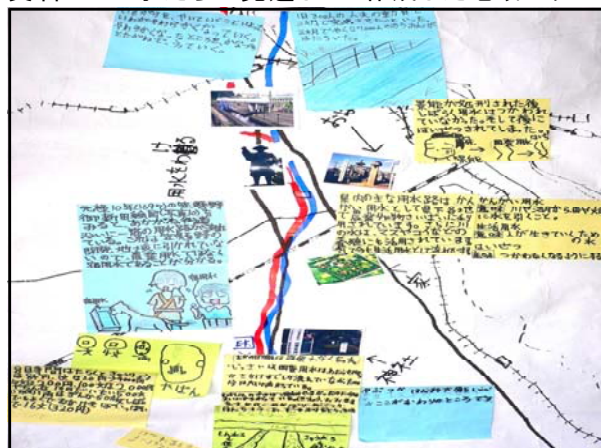
での考えを深めることができた。

以上のことから、岡登用水や岡上景能について調べて分かったことを地域マップに重ね合わせ、それぞれの情報を比較する活動を取り入れたことは、それぞれの情報が互いに関連していることをとらえるために有効であったと考える。

3 深める過程において、現在の用水路や水田などの使われ方や地域の様子について調べた情報を地域マップに重ね合わせ、地図上の過去の情報と比較する活動を取り入れたことは、現在の私たちの生活は過去の事象と密接にかかわって成り立っていることを理解し、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考えるために有効であったか

児童は見通し2で追究した課題を発展させ、現在の様子について本や文献資料、インターネットなどを活用して調べ、情報を収集した。収集した情報は小集団で話し合いながら見通し2で作成した地域マップにさらに重ね合わせる。そして情報相互の重なり方を比較することで、過去と現在の情報の関連性について理解し、先人の働きや苦心を自分とのかかわりから考えていく活動を行った(資料4)。

資料4 B子たちが見通し3で作成した地域マップ



A男は、「太田市で使われている用水の取入口」について、インターネットや文献資料から、現在渡良瀬川には取水口が三つあり、そのうち二つは自分たちが生活する太田市で生活用水や農業用水として活用されている用水の取水口であることを調べた。

地域マップに重ね合わせた情報の位置や内容を比較する活動では、A男たちは現在と過去の用水の利用法について比較し、その違いに気付くことができた。「では、この二つは全くかかわりがな

いのか。」と投げかけると、A男は、「どちらも人々の生活に役立っているよ。」と発言していた。

最後に、岡上景能の用水開発に込めた思いを考えさせると、岡登用水は今も使われていること、人々の役に立っているということから、「農民が楽になってほしいし、これからたくさんの人に使ってほしい。」と後世の人々のことも考えて開発を行ったと先人の思いや願いのとらえ方に変化が見られた。

資料5 学習後のA男の記述

岡登が作った おかげで、今でも用水のあるところはこめがとれている。

また、学習後の感想では、「岡登さんが用水をつくったおかげで、今でも用水のあるところはこめがとれている。」と現在の私たちの地域の様子と先人の働きを関連付けて考えた記述をしていた(資料5)。

B子は、「現在の岡登用水やほかの用水の使われ方」について、文献資料やインターネットから、岡登用水は現在も生活用水として活用されていること、多くの用水は生活用水や農業用水、魚の養殖や工業用水など、様々な用途で広く活用されていることを調べた。

地域マップに重ね合わせた情報の位置や内容を比較する活動では、B子は、過去と現在は、工事の仕方や道具など多くの部分で違いがあると考えていた。さらに、地図上の過去と現在の用水の使われ方の情報を比較し、今も昔も用水は人々の生活に役立っていることに気付くことができた。そこで、「どうして岡登用水はその後にも広がっていったのだろう。」と投げかけると、「用水が人々の生活に役立っているためです。」と答え、「だから現在も岡登用水は使われているんだ。きっとそこで生活している人々も喜んでいるね。」とつぶやいていた。

最後に、岡上景能の用水開発に込めた思いを考えさせると、先人が大変な苦勞をして用水の開発を行ったこと、現在でも生活用水として使われていることから、「今後も作物が育たなかったらどうになってしまうだろう。作物を育てるには、水が必要だ。そのために用水を造ろう。」と先のことも考えて用水開発を行ったと先人の願いや思いのとらえ方に変化が見られた。

また、学習後の感想では、「わたしたちの、のみ水やせんたくななどにすごくやくだっていてすご

資料6 学習後のB子の記述

わたしたちの、のみ水やせんたくななどにすごくやくだっていて、すごくたすかっている。あと岡登用水ができてくれたおかげでわたしたちの生活が昔よりもすごくいい生活が

くたすかっている。あと岡登用水ができてくれたおかげでわたしたちの生活が昔よりもすごくいい生活がおくれている。」と先人の働きにより、現在の自分たちの生活が楽になっていることを考えた記述をしていた(資料6)。

ほかの児童も、過去と現在の様々な情報が重なり合った地域マップを分析することで、先人の働きの結果、今の私たちの生活が成り立っていることに気付き、過去と現在の事象は関連性があることについての考えを深めることができた。

また、授業後学習プリントを分析すると、多くの児童が「岡上景能のおかげで用水も造られ、生活が楽になった。」、「今の私たちの生活にも用水は役立っている。」などと記述しており、過去の事象も自分たちとかかわりがあることを理解し、自分とのかかわりから先人の働きや苦心を考えることができていた。

以上のことから、新たに追究して分かったことを地域マップに重ね合わせ、過去と現在の情報を比較・分析したことで、過去と現在の事象のかかわりが明確となり、自分とのかかわりから先人の働きや苦心を考えていくために有効であったと考える。

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

- 地域マップに、各自が様々な視点で追究した情報を重ね合わせ、それらの情報を話し合いながら内容や配置を比較したことで、情報相互の関連について考えを深めることができた。
- 地域マップを分析して、過去と現在の事象の関連に気付かせ、自分とのかかわりから先人の働きや苦心を考えさせたことで、より身近なこととして過去の事象がとらえられ、先人の働きや苦心を深く考えられるようになった。
- 先人の働きや苦心をより深く考えさせるために、現在の自分たちの生活を見つめ直し、よりよくするためにできることを考えさせたり、先人の働きや苦心を他者に伝えたりする活動を取り入れるなどの工夫を、今後も行っていきたい。

